

理事会報告

2024年度第1回(2024年第7回)理事会議事録

日時：2024年10月11日(金) 14:00～17:30

場所：TKP 東京駅カンファレンスセンター
カンファレンスルーム 10B

現地出席者：

宇野 隆(理事長)、溝脇尚志(専務理事)、青山英史、有賀久哲、井垣 浩、石川 仁、内田伸恵、大西 洋、大野達也、岡嶋 馨、小川和彦、古平 毅、櫻井英幸、佐々木良平、澁谷景子、高橋健夫、中村和正、村上祐司(以上理事)、塩山善之、生島仁史(監事)、寺嶋秀夫(顧問会計士)、穂積重紀様(ACT代表)、以上オブザーバー、角田怜子、鈴木弘美、山内蓉子(以上事務局)

欠席者：なし (敬称略)

審議事項

1. 前回議事録承認(溝脇専務理事)

前回(2024/8/24)理事会議事録案と、その後の進捗状況が確認され、承認がなされた。

2. 会員の入会他(溝脇専務理事)

1) 入会申請(2024年8月16日～9月25日)：

計24名・1社[内訳 正会員7名、准会員16名、国際賛助会員1名、賛助会員1社]であることが報告され、承認された。

2) 2024年9月25日現在の会員登録状況について下記のとおり説明がなされた。

- 会員総数：4,391名
[内訳 正会員2,311名、准会員1,978名、名誉会員55名、賛助会員37社、国際賛助会員10名]
- 退会者：54名
[名誉会員1名、正会員27名、准会員26名]
- 正会員内訳：医師2,105名、歯科医師45名、医師以外160名(医師比率91.13%)
- 男女比率：正会員[男性1,838名、女性473名]、
准会員(男性1,512名、女性466名)
- 専門医数：1,475名(男性1,190名、女性285名)
- 賛助会員として毎年一定の会費を払い続けることに対して社内での審査が厳しくなっている企業もあり、今後学術大会での企業展示のためには賛助会員である必要があるなどの制約を設けることや無料招待枠の拡大について検討すべきとの意見が出された。

3. 2024年医学生・研修医セミナー開催報告及び2023年度補正予算(石川理事)

2024年5月18日オンライン、7月6日東京[エレクトラ(株)トレーニングセンター]、7月27日大阪[森ノ宮医療大学さくらポート他]にて開催された第42・43回医学生・研修医のための放射線治療セミナーの開催報告[参加者：東京28名、大阪：29名]及び会計報告がなされた。昨年に比して、医学生・研修医の参加者数が22名も増加し、それに伴うスタッフの旅費も増え、支出が若干オーバーしたため、補正予算が必要となった旨説明され、承認された。なお、今後はスタッフの派遣は東西エリアに分けて旅費を抑え、スタッフの人数についても上限を設定し、経費節減に留意し、実施する旨確認がなされた。

4. 第25回夏季セミナー開催報告及び2023年度補正予算(内田理事/岡嶋理事)

2024年8月3日～4日奈良 春日野国際フォーラムにて開催の第25回夏季セミナー(岡嶋馨当番世話人)の報告[参加人数：414名(有料参加者：347名、招待者：67名)]及び会計報告がなされ、今回、当初より抄録集の印刷費やホテル代の高騰による旅費が増加し、運営事務局費も例年より増えたことにより、支出がオーバーし補正予算が必要となる旨が説明され、承認された。なお、前回理事会(2024/8/24)においても確認があったが、仮払金については収入ではなく事業開始のための予算であるため、本来は返金すべき費用である旨、再度周知がなされた。

5. 特定費用準備資金「放射線治療PR事業」2023年度終了について(宇野理事長/岡嶋理事)

放射線治療PR事業について、2023年度は「1. 漫画コンテスト及び優秀漫画の冊子体の作成等」、「2. リクルート動画作成(新作3編+旧作2編更新)」、「3. 市民公開講座開催」、「4. 市民向けアンケートの実施」事業を行い、2017年度より計画・積立てした全額を2023年度末で全て取崩した旨が報告され、2023年度をもって、特定費用準備資金:放射線治療PR事業を一旦終了とする旨確認された。

なお、2023年度の取崩オーバー分については2023年度一般予算より支出する旨が承認された。

6. 2023年度決算案・監査について

(溝脇専務/寺嶋会計士/塩山監事/生島監事)

2023年度会計決算内容について、前議題3. 4. 5.の2023年度会計補正が承認されたため、これを含めた正味財産増減計算書、貸借対照表、附属明細書、財産目録等の会計計算書が提示され、当期正味財産増減額

は全体で赤字、公益目的事業会計においても赤字決算となったことが顧問会計士より説明がなされ、承認がなされた。

監事を代表して塩山監事より、2023年度における法人の事業・財産・会計決算書類について、10月2日JASTRO事務局にて、通帳をはじめ各種書類を生島監事と共に監査した結果、正確に運営されている旨が報告され、総会にて監査報告を行うことが説明された。

7. 2023年度事業報告案について (溝脇専務)

各担当理事より提出された2023年度各種事業報告案の確認がなされ、承認がなされた。

8. 代議員提案事項について (溝脇専務理事／宇野理事長)

代議員提案事項について、6名の代議員からの提案があったことが報告され、社員総会：その他議題として取り上げ、当日の主担当者や回答内容について以下確認がなされた。〔①婦人科癌小線源治療における3次元画像誘導小線源治療 (3D-IGBT) に対する保険収載 (健保委員長) ②推薦理事3名の選出方法について (将来計画委員長) ③各部会の合同開催について (将来計画委員長) ④准会員への代議員 (物理・技術枠) に限定した選挙権 (将来計画委員長) ⑤JASTRO参加ポイントの増点 (専門医制度委員長) ⑥JRSの年会費免除 (専門医制度委員長) ⑦行政対策チームの設立 (将来計画委員長) ⑧代議員選挙の改革のためのWG発足 (将来計画委員長) ⑨放射線治療研修プログラムがない諸外国へのサポート (国際委員長・教育委員長)〕

9. 2025年海外名誉会員推薦の件 (有賀理事)

2025年海外名誉会員について2025年学術大会長の櫻井理事よりRichad Pötter先生の推薦があった旨説明され承認された。なお定款第7条(4)に則り、2023年度社員総会(2024/11/21)にて推薦・審議する旨確認された。

10. 2023年度社員総会開催最終議案・発議について (宇野理事長)

2023年度社員総会について、2024年11月21日パシフィコ横浜ノースにて、以下の議題にて社員(代議員)を召集し、総会を開催する旨理事長より発議し、承認がなされた。なお第3号議案度役員を選任について、今回は立候した理事が員数を上回ったため、事前に議決権行使書にて全候補者19名に対し、候補者毎に過半数の確認を実施し、過半数の確認が取れた候補者より細則に基づき17名を選任する旨確認された。

- 報告事項 2023年度庶務報告、監査報告、2024年度事業計画、収支予算案報告

- 第1号議案 2023年度事業承認の件
- 第2号議案 2023年度決算報告書承認の件
- 第3号議案 2024・2025年度役員(理事・監事)選任の件
- 第4号議案 第41回学術大会長推挙の件
- 第5号議案 名誉会員承認の件
- [質問・討議] 代議員提案事項/その他

11. 書籍「患者さんと家族のための放射線治療Q&A (2025版)」の巻末表「放射線治療施設」掲載について (岡嶋理事/中村理事)

広報委員会を中心に改訂作業を進めている当会編集の患者さん向け書籍「患者さんと家族のための放射線治療Q&A (2025版)」巻末の放射線治療施設一覧掲載(データ利用)の可否について、広報委員会およびデータベース委員会の概ね賛成の審議結果が説明され、広報委員会より、JASTROgram等で掲載不可の確認後、旧年版同様、放射線治療施設として「構造調査への協力施設+認定施設」を掲載する旨承認された。なお今年度の構造調査については、協力した施設名を開示する場合がある旨、既に明記していることが説明された。

12. 漫画冊子体の配布に関する2024年度一般予算追加(補正)について (岡嶋理事)

特定費用準備金「放射線治療PR事業」にて作成の漫画冊子体の配布について、初版1.5万部の内、約半数をJASTRO認定施設や賛助会員、市民公開講座等にて配布行ったが、残数7.5千冊分について、保管費用や配布のための梱包料・送料が追加でかかる旨説明され、2024年度一般補正予算が申請、承認された。なお、冊子の内容から、一般向けだけでなく医学生へのPRにも適しているとの意見が出され、詳細の部数を検討し、理事の所属施設を中心に一斉に配布する案が承認された。

13. アイソトープ協会「アルファ線源 (Ra-224線源) 小線源治療実施要綱案」/日産婦「子宮体癌取扱い規約臨床編 第4版」申合せ/放射線治療計画ガイドライン2024年最終版 他 (井垣理事)

- アイソトープ協会依頼の「アルファ線源 (Ra-224線源) 小線源治療実施要綱案」について、当会ガイドライン (GL) 委員会にて既に査読を実施し、アイソトープ協会よりその回答と修正された最終案をGL委員会で審議した結果、追加意見はなかった旨が説明され、最終案が承認された。
- 4学会共同編集による「子宮体癌取扱い規約臨床編 第4版」刊行について、出版契約に先行して、4学

会の費用等の取り決め「申し合わせ」(費用：各学会負担、印税：各学会按分等)の締結依頼が日本産科婦人科学会より依頼のあった旨説明され、案が承認された。また、今後現地参加での会議出席が必要となった場合の旅費としての2024年度補正予算が承認された。

- 2023年1月より執筆・編集作業を行い、第37回学術大会中の出版を予定している「放射線治療計画ガイドライン2024年版」について、最終原稿が示され承認された。また、出版契約書案が提示され、今回新たに「著作権等の侵害に対する対応」(代理で出版社が窓口として対応する等)の条項を追加する予定である旨説明された。
- 「前立腺癌放射線治療におけるスパーサーに対する適正使用指針案」の当会への検討依頼があり、企業作成のドラフト案が提示され、正式な依頼状はまだこれからである等経緯の説明がなされた。現在薬事申請中で製品の詳細が公表されていないこと、既に別会社の類似スパーサーに関する適正使用指針が慎重な検討後、当会ホームページ掲載されたが、それとの相違点が適切であるか、別会社の製品にとって不利な内容にならないか、また今回は泌尿器学会との共同編となっており、監修している医師の有無他、記載内容等を慎重に検討する旨確認された。

14. 治療専門医資格辞退(古平理事)

放射線治療専門医資格について4名の資格返上の申請があった旨説明され承認された。

15. 2024年度シード講習会及びラルス講習会の共催依頼について/第62回アイソトープ・放射線研究発表会共催について(佐々木理事)

- 日本アイソトープ協会「ヨウ素125シード線源による前立腺癌永久挿入密封小線源治療の安全管理・技術講習会」「高線量率ラルス医療安全取扱講習会」に対して、共催依頼の申請があり、渉外・関連学会委員会の予備審査結果が提示され、規程に基づき、共催が承認された。
- 日本アイソトープ協会「第62回アイソトープ・放射線研究発表会」について、協賛・後援の申請があり、規程に基づき、渉外・関連学会委員会の予備審査結果が提示され、運営委員を神宮啓一会員として推薦し協賛する旨承認された。

16. 放射線治療計画補助者会議「確認・試験作業部会」への医師派遣依頼について(大野理事/澁谷理事)

放射線治療品質管理機構より、高精度な治療プランの確認と承認プロセスの強化のため新設された放射線

治療計画補助者会議「確認・試験作業部会」への放射線治療医2名の派遣依頼があった旨説明され、村上 祐司理事を推薦する旨承認された。もう1名については前回8月理事会にて承認された7名の「コンテンツ作業部会」委員の中から選出する旨承認された。また併せて今後放射線治療品質管理機構に新設の「財務・将来計画部会」の部会長に溝脇専務理事が就任する予定が承認された。

17. 特定放射性同位元素防護管理者等育成プログラム開催の要望について(大野理事)

2017年の法令改正によりRALS設置施設へは防護管理責任者の配置が義務付けられており、改正前からのRALS設置施設は原子力規制庁が開催の「防護管理者育成プログラム」の受講により防護管理責任者が選任されていた旨説明された。しかし近年、同プログラムは開講されておらず、施設自身で研修先を調整し、1年間の防護規定研修を行うことが必要な状況となっており、規制庁宛ての同プログラム再開の要望書案を作成した旨説明されたが、近日、規制庁よりプログラム再開に向け準備を進めている旨連絡があったため、要望書は提出せず今後の状況を見ていく旨承認された。

18. 2027年学術大会：影響学会との合同開催

(溝脇第40回学術大会長)

第40回学術大会(2027年10月28～30日京都国際会議場開催予定)における日本放射線影響学会学術総会(大会長：原田 浩会員)との合同開催について、2013年第26回大会以来14年ぶりとなるが、合同開催の承認がなされた。なお費用の分担等詳細については今後検討する旨確認された。

19. 財務・総務委員会の分割について

(宇野理事長/溝脇専務理事)

2010年より財務・総務委員会が合併し、一つの委員会として活動を行ってきたが、学会事業の多角化等により、各事業の新規予算審査に加え、各イベント予算や公益事業の運用試算案作成、各委員会活動の調整他、更なる財務・総務部門の業務が必要となるため、学会の予算・会計に関わる部分を財務委員会が担当し、会議運営や各委員会活動の調整や総務関連部分については総務委員会が担当する当委員会の分割案が示され、承認された。なお従来、財務・総務委員会委員長が専務理事となっていたが、分割後は財務委員長が専務理事、総務委員長は総務担当理事が務めることとした。あわせて委員会細則の制定を進める旨を確認された。

20. 役員が学会案件で関係省庁や関連団体幹部と面談する際の規則の制定（宇野理事長／溝脇専務理事）

役員が学会関連の案件において関係省庁や関連団体幹部と面談する際、日時や内容等役員間で共有できるよう、要件や訪問先、持参資料等について理事会に報告することが確認された。議事録としての公表は避け、理事会で慎重に共有、保管するなど報告内容等について定めた規定の制定を作成することについて承認された。

報告事項

1. 理事長・専務理事職務状況報告

（宇野理事長／溝脇専務理事）

現在までの業務状況・活動報告がなされた。

2. 財務・総務委員会：前立腺癌患者に対するPSMAを標的とした核医学診断・治療の早期国内導入及びその環境整備に関する4学会要望書（溝脇専務理事）

前回8月理事会にて承認された厚労大臣宛での「前立腺癌患者に対するPSMAを標的とした核医学診断・治療の早期国内導入及びその環境整備に関する要望書」について日本核医学会、日本泌尿器科学会、日本医学放射線学会との4学会連名にて提出の承認を得たが、衆議院選挙後に提出予定であることが報告された。

3. 「がん対策推進協議会」報告（8月5日開催）／厚労省面談報告（9月10日）（宇野理事長）

- 2024年8月5日WEB開催された第90回がん対策推進協議会へ出席し、がん診療連携拠点病院等の整備指針見直しスケジュール等について説明があった旨報告された。
- 2024年9月10日、宇野理事長が厚労省へ「放射線治療の現状と当会が目指す方向性」の資料の配布・と説明、挨拶等を行った旨報告された。

4. 健保委員会：厚労省訪問報告（大西理事）

2024年9月4日、大西健保委員長が遠山尚紀委員とともに、厚労省を訪問した旨、報告された。

5. 医学物理士・QA委員会：放射線治療計画業務補助者の教育／研修体制構築に関する関連団体協議報告

（大野理事／澁谷理事）

第2回放射線治療計画補助者会議（2024/9/17-18）の資料を元に、再度、組織〔委員：関連8団+厚労科研大西班〕や、4作業部会（①コンテンツ作業部会／以下新設→②確認・試験作業部会③データベース作業部会④施設基準関連作業部会）の設置、ロードマップ等経過が

報告された。医師が配置できない場合や医師1名の教育、補助者の雇用問題等関連した課題にも取り組む必要がある、また地方や患者さんの意見が反映される構成員の検討が必要等の意見が出され、引き続き8団体が協働している機会を生かし成果を出せるよう当会が積極的に取り組む旨確認された。

6. 小線源治療部会：密封小線源治療における医療機器安全管理料2運用指針2024（大野理事）

2024年6月より、安全な密封小線源治療の体制を整備した施設に、医療機器安全管理料2が体外照射に加えて密封小線源治療でも算定可能となり、小線源部会にて、算定の目的と要件、推奨事項を整理・作成した「密封小線源治療における医療機器安全管理料2運用指針2024」が示され、この指針をホームページに掲載し、広く周知する旨確認された。

7. 教育委員会：物理学セミナー開催報告、アーカイブ事業報告（内田理事）

- 第12回放射線治療・物理学セミナー〔2024/7/13WEB開催（ライブ+オンデマンド配信）／松浦妙子世話人（北海道大学）〕の開催報告〔有料参加者：180名〕および収支決算書による収支報告がなされた。〔学会への返金あり〕
- 過去の症例紹介として昨年より名誉会員からの症例データ収集を行っていたシニアドクターのスライドアーカイブ事業について、症例提供者14名、プロフィール提供1名、ファイル数35となっており会員ページのteaching File Systemから閲覧、一部ファイルはダウンロードできるよう準備を進めており、本理事会終了後、理事よりの修正などがなければ近日中に会員向けに公開される予定である旨報告された。

8. 「第3回MR画像誘導適応放射線治療研究会」（特定費用準備資金事業）開催報告

（澁谷理事／大西部会長／宇野理事長）

「第3回日本MR画像誘導適応放射線治療研究会」（高精度部会分科会）について、実施報告〔2024年7月6日／会場開催（あべのハルカス会議室）／世話人：澁谷景子理事（大阪公立大学）／参加者106名（学生・研修医・招待含む）〕及び会計収支報告がなされ、費用について、計画通り特定費用準備金より支出する旨報告された。なおこの積み立て残金が次年度分の研究会開催費を残すのみとなっているが、2025年度以降特定費用準備金継続するか、一般事業とするか等、今後検討の必要がある旨確認された。

次年度に関しては、特定費用準備金設定時に定めた「MR画像誘導適応放射線治療研究会」の名称で行い、

その後については高精度部会で検討することが確認された。

9. 広報委員会：プレスカンファレンス2024（岡嶋理事）

「プレスカンファレンス2024」の開催報告がなされた。[開催日2024年9月19日／会場：トラストシティカンファレンス京橋／テーマ：肺がんへの放射線治療の進化／講演者：宇野理事長、大西大会長、岡嶋広報担当理事（司会）、櫻井理事、井垣理事／マスコミ参加者計6名]。また、既に10月3日の「週間 病院新聞」へ記事が掲載された旨が報告された。

10. ガイドライン委員会：肺癌診療ガイドライン2024年版 後援依頼について（井垣理事）

日本肺癌学会より「肺癌診療ガイドライン2024年版」について後援依頼があり、従来から後援を行っていたこと、また2024年版においてはガイドライン検討委員会として石川理事が委員長を務めていることからすでに日本肺癌学会へ後援許可の回答をした旨報告された。

11. 国際委員会：日中韓シンポ、ESTRO/JASTROシンポ、日台シンポ報告第一報、ASTRO/JASTROシンポ報告（青山理事）

- 2024年8月17日～18日札幌「第9回日台シンポジウム」の開催報告がなされた[青山英史大会長／参加者：日本81名、台湾41名、英国1名、米国1名、併催シンポジウムからの参加22名、計150名(内WEB8名)]。第10回は2025年8月30日台湾高雄市で開催予定。
- 2024年8月23日～25日マレーシアクアラルンプール開催「第3回Joint FARO-ESTRO congress @ESTRO meet Asia 2024」に代表を派遣し、JASTRO展示ブースを設置した旨報告された。次回は第7回FARO(2025年10月9-11日タイのチャンマイ)において開催予定。
- 2024年9月30日ASTRO 2024(ワシントンDC)「第1回JASTRO-ASTROシンポジウム」の開催が報告された。第2回シンポジウムは第38回学術大会(櫻井第38回学術大会長)中に開催予定。
- 2024年11月15日中国：北京「2024年日中韓シンポジウム」の開催予定が報告された。次年度は第38回学術大会(櫻井第38回学術大会長)中に開催予定。
- 2024年11月22日第37回JASTRO学術大会「ESTRO-JASTROシンポジウム2024」の開催予定が報告された。次年度はESTRO(2025年5月2日～6日オーストリア・ウィーン)にて開催予定。

12. 緩和的放射線治療委員会：好事例集・緩和的放射線治療診療ガイドライン進捗報告（高橋理事）

- 前回8月理事会にて最終案を提示した緩和的放射線治療の好事例集が完成し、学会ホームページに掲載された旨報告された。今後は会員やがん診療連携拠点病院等へ周知を進めていく旨確認された。
- 緩和的放射線治療診療ガイドラインについて、前回理事会にて報告の通り10のCQ案が確定しており、現在は日本医学図書館協会へ診療ガイドライン文献検索を依頼し順調に進んでいる旨報告された。

13. QA委員会：放射線治療品質管理機構・提言書「放射線治療装置導入に関するコミッション必要期間(2008年)」の改訂（澁谷理事）

2008年に放射線治療品質管理機構により作成された提言書「放射線治療装置導入に関するコミッション必要期間」について、新たな治療装置・技術の進展などにより現在の状況を踏まえた内容へ更新した改定案が示され説明された。なお改定案に対し意見がある場合には機構が作成した所定のコメントサイトへ回答するよう周知がなされた。

14. 第37回学術大会準備状況医師を目指す学生向け“ACTスポンサードセミナー”への協力依頼

(大西第37回大会長／ACT穂積代表)

- 2024年11月21～23日パシフィコ横浜にて開催予定の第37回学術大会の最新プログラムが示され説明がなされた。現地参加費はWEB参加より低く設定していること、マラソン企画等独自企画も多数用意しており、現地参加が呼びかけられた。また本大会ではがん患者及びご家族が参加可能なセッションを設けており、HPの掲載や参加登録フォームなど準備を進めている旨併せて報告された。
- ACTの穂積代表より、2024年11月23日学術大会にて医師を目指す学生向けのACTスポンサードセミナー「君も放射線治療を拓める輪に加わろう」(座長：宇野理事長、演者：Komaki Ritsuko先生、淡河恵津世会員、川村麻里子会員／講演+懇談会)を企画している旨説明され、役員へ医学生への周知依頼がなされた。